

令和2年2月29日

**学びの広場**

京都市教育委員会 教員養成支援室

**第5回教育実践特別公開講座****「本市が進める小中一貫教育」****講師：学校指導課 竹内 知史 統括首席指導主事**

今回は、学校指導課の竹内統括首席指導主事に来ていただき、京都市が進める小中一貫教育と題して、義務教育9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ具体的な取組についてお話しいただきました。小中一貫教育の実施形態については施設一体型、施設併用型、連携型の3つがありますが、施設併用型である京都御池中学校ブロックにおける、読解力育成を基盤とした取組について紹介してくださいました。また、「小中の課題を共有する」「授業を協働で創り出す」など、小中一貫教育推進のポイントも伝えてくださいました。

以下は、京都市の採用内定者である卒塾生の感想の一部です。皆さんの中から、今後採用内定者としてまた講義を受けに来てくれることを心待ちにしています。

- 京都市の小学校の始まりを改めて学び、京都市の教育の魅力の原点を感じました。開かれた教育を行うことで、子どもたちの思考力・判断力・表現力がより深められると学びました。小学校教員として小中一貫教育に貢献できるように、9年間の学びを見通した指導をしていきたいです。
- 環境が変われば意識が変わる、話し合いができたなら理解が深まるということが分かった講義でした。子どもたちの中1ギャップの改善が、実は教師同士の理解にも繋がっていることが分かり、それぞれの地域での対応やあり方も考えていきたいと感じました。

**第9回京都市教育学講座 「授業づくりと評価」****講師：学校指導課 海老瀬 隆博 参与**

午後からは、学校指導課の海老瀬参与のご講義でした。社会が構造的に変化していく中で、人や学校との関わりを通して子どもの知識の理解の質をいかに高めるのが、新学習指導要領では重視されています。そこで、小学校の社会科や図画工作科、総合的な学習の時間の授業実践、幼稚園の保育実践における主体的、また対話的に学んでいる子どもの具体の姿をもとに、どのように評価すればよいかを考えていきました。よく「指導と評価の一体化」と言いますが、子どもが示す具体的な事実をもとにさまざまな方法で子どもを丁寧に見取ることが「評価する」ことであり、教師の具体的な手立てによって教師の教え方・子どもの学び方を工夫することが「指導する」ことであり、この往還によって授業はより良くなること、そして自らの授業を振り返り、改善し、次に生かすことが大事なのだを教えてくださいました。

分散会では「子どもの学びの姿をどう捉え、どう授業に生かすか？」というテーマで話し合いました。今回の分散会は、校種・職種別のグループに分かれたことで、普段よりもさらに活発な話し合いができていました。全体交流でも校種・職種ごとの意見を聞くことで、視野が広がったようです。



#### 1 全体会

私は養護教諭志望で授業する機会はなかなかないので、あまり関係ないとはじめは思っていました。しかし、本講義を受講してその考えが浅はかであったと反省しました。授業は学校生活全体で実践され、養護教諭も一端を担っていることを学びました。保健指導を例に挙げると、受傷した子どもがなぜケガをしたのか、同じケガをしないようにするには何に気をつけたらいいのか、発問することで子どもが「考える」という機会を確保できます。そして、考えたことを言葉で表現し伝えることができれば、「学び」として身に着くことに繋がるのだと考えました。また、印象的だったのは対話的な学びのかたちの多様さです。子ども対子どもはもちろんのこと、子ども対大人、そして子ども対モノまで、学びを共にする相手が違えば得られるものも変わってきます。課題に対して関わり合いながら向き合い、好奇心の芽を育てていける場を設けることが重要なのだと思いました。

#### 2 分散会

初めて班員全員が養護教諭志望ということで、専門性をより深められる話合いになりました。「自分の言葉で状態を伝えられる子どもの育成を目指す」という意見が挙がりました。しかし、この問題は保健室だけでは解消できません。自分の意見を表して良いという自尊感情を育てたり、そもそもの語彙力をつけたりと、「校種や専門にとらわれない」という全体会でのキーワードとこの意見が繋がりました。そして、やはり学校は組織であり、全体で教育を行っているのだと実感しました。

#### 3 まとめ

私はサービスエリアのような保健室経営を目標としています。それは、保健室を真の居場所にするのではなく、少し休憩し、ガソリンを入れるようにエネルギーをチャージして教室に送り出すというイメージです。授業という指導のかたちでの発信の機会は少ないかもしれませんが、保健だよりや保健指導を通して、子どもに伝えられることはたくさんあると思いました。

「サービスエリアのような保健室経営」とても分かりやすいです。しんどい子どもを囲うのではないという考えが、学校組織の一員としてとても素晴らしい考えです。講義を受けたことで、「考える」「言葉で伝える」という大きな「学び」に繋がることに気づけてよかったです。特に子どもたちにとって自分の身体の不都合や困りをしっかりと伝えることは命を守ることです。ゆっくりでも適格に話せるように対応をしてください。

#### 分散会・補講の様子

#### FW「先輩の授業に学ぼう」

#### 仁和小学校 (2/25)



1年英語活動の授業を参観しました。

